

2025/6/15

理事長挨拶



日本皮膚悪性腫瘍学会 理事長 奥山隆平
(信州大学医学部皮膚科学教室)

皆様

今年度の日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会は、6月27日(土)・28日(日)にブランドメルキュール札幌大通公園(札幌市)にて開催いたします。日頃の診療で培われた知見を共有し、活発な意見交換を通じて「皮膚がん診療の新たな地平」を切り拓く貴重な場となることを心より願っております。

本大会の企画・運営にあたり、宇原 久教授をはじめ、札幌医科大学医学部皮膚科学講座の皆様には多大なるご尽力を賜り、心より御礼申し上げます。

近年、治療薬の選択肢は飛躍的に広がり、従来は対応が難しかった症例にも顕著な効果が期待できるようになってきました。しかし、依然として十分な治療効果を得られないケースも少なくありません。進行性疾患である皮膚がんと闘う患者様にとって、時間は何よりも貴重です。だからこそ、最新の知見と経験を迅速に共有し、最適な治療をいち早く提供することが、学会としての大きな責務であると考えております。

本大会が、多様な視点からの情報交換を促進し、新たなブレークスルーを生み出す契機となり、より優れた皮膚がん診療の普及につながることを期待しております。皆様の積極的なご参加とご協力を、心よりお願い申し上げます。

第41回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会会長からの挨拶

宇原 久

(札幌医科大学医学部 皮膚科学講座)

Disce, doce, diligei (学び、教え、愛せ)

第41回日本皮膚悪性腫瘍学会の会長を務めます。札幌医大主幹による開催は、第8回(1992年)の高橋 誠教授、第19回(2003年)の神保孝一教授、に次いで3回目となります。1985年の日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会第1回(東京大学、川村太郎教授)の開催から40年が経過しました。私事で恐縮ですが、私は1986年に大学を卒業し、信州大学の斎田俊明助教(当時)の命で1988・1990年に国立がんセンター病理部と皮膚科で研修し、その後も皮膚腫瘍の分野で診療を続けてきました。私は本年度で定年を迎えますので日本皮膚悪性腫瘍学会の40年間はほぼ私のキャリアと重なります。振り返ればたくさん思い出がよみがえってきます。

40年間の時の流れの中で、多くの先輩医師によって皮膚腫瘍の診断と治療の進化がありました。一方で、進化した患者さんを救えない失望感に満ちた時代が長く続きました。ご存じのようにこの10年間で登場してきた免疫チェックポイント阻害薬や小分

子分子標的薬によって治療効果は格段に向上しましたが、その効果はまだ十分とはいえません。

本学術集会のテーマは“Disce, doce, diligei”学び、教え、愛せ”としました。皮膚病理医 Ackerman 先生の書籍“*A Philosophy of Practice of Surgical Pathology: Dermatopathology As Model*”の最後のページに記載されている文句です。いろいろな意味合いがあると思いますが、私は勝手に、本学会が「若いもんも、ベテランも、愛を持って皆で勉強して教えあう」場になって欲しいと願って使いました。さらなる進化を次の世代の方に託したいという思いもあります。

6月末は北海道が夏を迎える素晴らしい時期です。多くの方にご参加いただきたいと思います。よろしくお願いたします。

会員の現況

会員現況 (令和7年4月30日現在)	
会員数	
1) 一般会員	1,367 名
2) 賛助会員	6 社
東レ(株)、(株)ミノ ファーゲン製薬、常 盤薬品工業(株)、日本 ロレアル(株)、(株)ピー シーエルジャパン、 アッヴィ合同会社	
3) 名誉会員	23 名
4) 功労会員	85 名
合 計	1,481 名

皮膚がんレジストリの実施状況報告

皮膚がん

予後統計委員会委員長

加藤則人

(京都府立医科大学皮膚科)

本委員会は、皮膚悪性腫瘍の症例数や新規発症数、発症年齢などの臨床統計を把握するとともに、

累積データから、病型の変動、治療成績や生存率の推移などの予後調査と臨床研究を行う事を目的にしています。これまで悪性黒色腫と皮膚リンパ腫について調査を継続しており、皮膚リンパ腫については発生状況の調査を、悪性黒色腫については2005年から予後データを含むデータ集積を行ってきました。

2024年からは、委員会のメンバーを大幅に増員し、従来の悪性黒色腫の調査をベースに、皮膚

リンパ腫、乳房外パジエツト病、皮膚血管肉腫につ

いても、予後データを含

む臨床情報をデータベ

ス化するレジストリ研究

を開始しました。

2025年3月末に締

め切った2024年の新

規症例登録は、悪性黒色

腫1319例、乳房外パ

ジエツト病482例、皮

膚血管肉腫162例、皮

膚リンパ腫148例でし

た。ご参加の先生方や研

究補助者の皆様のご協力

のもと、2024年も多

くの症例を登録頂きまし

たことに、改めて感謝申

し上げます。また、並行

して収集している予後

データの入力についても、

100%達成に向けて、

皆様のご協力をお願い

皮膚がん診療ガイドライン2025作成状況

皮膚がん診療ガイドライン作成委員会委員長

中村泰大 (埼玉医科大学国際医療センター)

皮膚腫瘍科・皮膚科

2023年3月より改訂第4版の作成に取り掛かっ

たガイドラインですが、2024年12月よりメラノ

マ、乳房外パジエツト病、メルケル細胞癌、皮膚血管

肉腫、皮膚リンパ腫、有棘細胞癌改訂ガイドラインの

日本語版が順次日本皮膚科学会雑誌に掲載されまし

た。基底細胞癌ガイドラインも既にパブリックコメン

トを終了しており、最終版を日本皮膚科学会に提出

しており掲載間近となります (2025年6月現在)。

英文版については、メラノーマガイドラインがThe

Journal of Dermatology 誌の最終校正中で近日掲載

される予定です。他の英文版についても今年度中の公

開を目標に各診療ガイドライングループにて随時作

成、投稿中です。大きな遅滞のない作成進捗はひとえ

にガイドライン作成委員・統括委員の先生方、サポー

トを頂いております日本皮膚悪性腫瘍学会、日本皮膚

科学会の関係各位のおかげでありますこと、心より御

礼申し上げます。

現在本邦の改訂ガイドラインは東アジアのみなら

ず欧米でも大変注目を浴びております。代表的事案

として、本年4月3〜5日にギリシャ・アテネで開

催された11th World Congress of Melanoma/21st EADO Congressのガイドラインシンポジウムに、EADO、ESMO、NCCNメラノーマガイドラインと並び本邦メラノーマガイドラインについての講演依

頼があり、福島聡代表委員 (熊本大学皮膚科) が現地で講演されました (図)。聴講者から大変興味をひいており、多くの質問や前向きなコメント、賞賛がありました。

このようにGRADE systemにより科学的公平性をもって作成された本邦ガイドラインは今後ますます国際的なプレゼンスを確立していくものと思われます。本改訂ガイドラインを実臨床で皮膚がん患者さんにお役立て頂ければ大変幸いに存じます。



東アジアのガイドラインを目指して ～WCM/EADO 2025においてメラノーマ診療ガイドラインを発表～

皮膚がん診療ガイドライン作成委員会代表委員

(メラノーマ)

福島 聡 (熊本大学病院皮膚科)

2025年4月3日から5日までアテネで行われた The 11th World Congress of Melanoma & 21st EADO Congress において、「世界のメラノーマガイドライン」というシンポジウムで、日本の最新の改訂ガイドラインについて発表する機会を得ました。EADO (European Association of Dermato-Oncology)・ESMO (European Society for Medical Oncology)・NCCN (National Comprehensive Cancer Network) と並び、JDA/JSCS のガイドラインがシンポジウムに名を連ねたのは、とても誇らしい光景でした。

皮膚がん診療ガイドライン第4版メラノーマ診療ガイドライン2025では、東アジアのデータを盛り込み、より地域特性を反映したガイドライン作成を目指しました。日本のガイドラインではありますが、「東アジアのガイドラインを作るんだ」という気概をもって作成しました。結果として、いくつかのCOについては、欧米のガイドラインとは異なる推奨内容となりました。具体的には欧米のガイドラインと大きく異なる推奨文となったのは以下の2つのCOです。

●CO7: 根治切除不能なBRAF 変異陰性メラノーマの一次治療は抗PD-1抗体を提案する。

●CO8: 東アジアにおいては根治切除不能なBRAF 変異陽性例の一次治療として、BRAF/MEK 阻害薬、抗PD-1抗体、あるいは抗PD-1抗体+抗CTLA-4抗体併用療法を同程度に提案する。

アテネでは、なぜこのような推奨になったのかについて発表してきました。詳細については、ぜひ日本語のメラノーマ診療ガイドラインをお読みいただければと思います。

会場では、ヨーロッパ、アメリカのガイドラインの発表が終わったあと、日本の番がきたのですが、聴衆は誰一人会場をでていくわけでもなく、とても興味深く聴いてもらえました。

同じく末

端型メラノーマを取り扱うアメリカの医師から質問をされたり、いろんな国の医師からも意見をもらえたりしました。このガイドラインが東アジアをこえて、世界の必要な地域の方々に使ってもらえるとうれしいなと感じ



The 11th World Congress of Melanoma & 21st EADO Congress took place in Athens, Greece and provided a comprehensive overview of the most recent advances in melanoma and cutaneous oncology. A variety of plenary lectures, interactive symposia, and workshops will cover the field of melanoma as squamous cell carcinoma, Merkel cell carcinoma, basal cell carcinoma, actinic keratosis, cutaneous sarcoma, adnexal tumors and cutaneous T- and B-cell lymphomas. Watch interviews on these topics here at [vjconology.com](https://www.vjconology.com)



じた瞬間でした。注目度が高かったのか、シンポジウム後に「Video Journal of Dermatology」の取材を受けました。4月現在私の動画が3本上がっております。ぜひご視聴いただければ幸いです。(https://www.vjconology.com/event/eado-wcm-2025/?hp)

GRADEシステムを採用したしっかりとしたエビデンスをもとにしたガイドラインを作成し、欧米の和訳ではなく、自分たちの地域独自のガイドラインを発信できたことは、とても有意義だったと思います。今回、メラノーマ患者会からもガイドライン委員に参加いただいたことも大きかったです。本ガイドライン作成に関わっていただいた全ての方に感謝します。

皮膚がん取り扱い規約 改定第3版の作成状況

皮膚がん取り扱い規約改訂委員会委員長

安齋 眞一 (PCL 東京 病理・細胞診センター)

皮膚がん取り扱い規約改訂第3版(第2版までは皮膚悪性腫瘍取り扱い規約)は、2023年9月より実質的にその作成を開始し、日本皮膚病理組織学会のご協力を得て、後藤啓介先生はじめ数多くの先生方のご尽力でその作成をすめて参りました。今回は、前版の作成からすでに15年経過したこともあり、その内容を一新し、はじめて、多数の病理医に参加して頂き、皮膚がん(旧悪性腫瘍)診療ガイド

ラインとはその内容を完全に分離したので、他の癌腫の取り扱い規約のように、実際の臨床の場での皮膚がんの取り扱いに役立つものができたと考えています。また、皮膚がん診療ガイドラインの作成委員会とも密に連絡を取り、内容の重複がないように、また、用語などが統一されるように細心の注意を払って作成しました。

委員としては、日本皮膚悪性腫瘍学会会員のみなさん、日本皮膚病理組織学会や日本病理学会の会員の先生方にも御参加頂きました。皆様のご努力のおかげで、2024年11月末にはβ版として日本皮膚悪性腫瘍学会の理事・評議員および日本皮膚病理組織学会会員に内容をWEB上で公開し、パブリックコメントの募集を始めました。それにとりも修正

の後発刊する予定でしたが、近日中(当初2025年夏という情報でした)に、皮膚がん診療のグローバルスタンダードであるJCOの改訂が行われるとの情報があり、一旦それを待って発刊することになりました。しかしながら、その情報も不確実のものなので、いつ改定されるかが見通せず、状況を見ながら近日中に発刊することも視野に入れています。

今回の取り扱い規約の内容の要約に関しては、第41回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会の教育講演で後藤啓介先生が解説する予定ですので、ぜひお聞き下さい。今回の皮膚がん取り扱い規約の改定により、日常の皮膚がん診療がスムーズに運べるようになることを、委員を代表して切に願っております。

雑誌委員会より

雑誌委員会委員長

門野 岳史 (聖マリアンナ医科大学皮膚科)

Skin Cancer 誌は2024年度も予定通り年3回オンラインジャーナルとして発行することができました。一般演題からの症例報告が大幅に増えて、ページ数も増加しています。これに加えて、学術大会の特別講演や教育講演の内容も掲載されていますので是非クリックして一読ください。また、本年も学術集会で特別講演や教育講演をされた先生方に原稿執筆の依頼をさせていただきます。お忙しいとは思いますが、先生方の玉稿を心よりお待ちしております。一般演題からの投稿もお待ちしています。もちろん内容次第ですが、優れた編集者と委員の皆様を支えられ、査読が素早くスムーズに運んでいますので、是非ご検討ください。

事務局より

▼賛助会員およびバナー広告を募集中です

賛助会員、およびオンラインジャーナルサイトでのバナー広告提供企業を引き続き募集しております。関係者の皆様にはご多忙の中、お願い申し上げます。

▼令和6年度若手トラベルグラント受賞者のお知らせ

第1次受賞者：小泉 滋

(埼玉医科大学国際医療センター)

参加学会／2024 ASCO Annual Meeting

(開催地／米国・シカゴ)

演 題：Prognosis of deep margin excisions

within or beyond subcutaneous fat for invasive acral melanoma of the sole: A multi-institutional retrospective study. (ポスター発表)

第2次受賞者：木村 俊寛 (熊本大学)

参加学会／ESMO Congress 2024

(開催地／スペイン・バルセロナ)

演 題：Genomic and transcriptomic

analysis of Japanese melanoma reveals candidate biomarkers for immune checkpoint inhibitor responders. (ポスター発表)

第1次、第2次とも助成額：30万円

▼令和7年度若手トラベルグラントに応募ください

海外で開催される学会での発表を行う若手会員を支援するため、若手トラベルグラント制度を設けております。演題がアクセプトされた方はご連絡ください。 http://www.skincancer.jp/young_travel_grant.html

(文責) 事務局 木庭幸子